

特集

姉妹町多良木町との児童交流

多良木町の夏を満喫。 交流で深めた友情!!

平成22年2月に熊本県球磨郡多良木町と姉妹町を締結し、交流を始めてから5回目を迎えた児童交流学習事業。今年は7月25日から28日の日程で、南幌小学校の岡田校長を訪問団長として、児童10名（男子5名・女子5名）が多良木町を訪問し、多良木町の児童と一緒に様々な学習や体験を行い交流を深めました。

【1日目】 7月25日
結団出発式／歓迎レセプション／夕食会



出発の朝、役場に集合し、大きな期待を胸に結団出発式を行いました。児童を代表して嘉津山詩恩さんが「多良木町の方と交流を深めたい」と決意表明を述べた後、たくさんの方々に見送られ出発しました。

羽田空港から熊本へ向かう飛行機が40分ほど遅れましたが、熊本空港に到着すると多良木町教育委員会の永井さんと秋山さんがウエルカムボードを持って、南幌町訪問団を迎えてくれました。空港から一步外に出ると気温は16時で33度もあり、ジリジリ照りつける日差しと湿度の高い空気に思わず「暑い!」との声。バスで人吉駅まで向かい、くま川鉄道に乗り込みました。今回乗車したくま川鉄道の車両「田園シンフォニー」は、平成26年3月から運行を開始した新型

観光列車で、本来であれば別な時間帯に運行しているのを、どうしても乗せたいと多良木町の職員が鉄道会社に依頼し、乗車することができたのです。素敵な車内の雰囲気感激しながら多良木町を目指しました。

多良木駅に到着すると、たくさんの方々の出迎えがあり、交流館石倉で歓迎レセプションが開催されました。多良木町の松本町長から歓迎の挨拶を頂き、久米小の窪田校長と黒肥地小の森安晃大君から歓迎の言葉を頂きました。南幌町からは、南幌小の岡田校長が訪問団長挨拶を、児童を代表して野呂夏希さんが訪問の言葉を述べました。また、佐々木大和君と中村望々夏さんがスクリーンに映された数々の写真とともに南幌町の紹介を行いました。



レセプションの後は夕食会を催していただきました。食事をしながら多良木町の児童と楽しく話が弾み、前からの友達だったかのように仲良くなっている様子に一安心。夕食後は、えびす温泉で旅の疲れを癒し、「ブルートレインたらぎ」に両町の児童が一緒に宿泊しました。

- ① 森安晃大君（黒肥地小）の歓迎の言葉
- ② 野呂夏希さん（南幌小）の訪問の言葉
- ③ 佐々木大和君、中村望々夏さんの南幌の紹介
- ④ 多良木町の児童との夕食会



妙見野自然の森展望公園



ヤマメの塩焼きをガブリ！



球磨川でラフティング



高さ7mの岩場からジャンプ！

2日目は、日本三大急流の一つである球磨川でのラフティング体験からスタート。ゴムボートに乗る前に説明を聞き、川で浮く練習などをしましたが、高い気温とは裏腹に心地よい川の水の冷たさに早くも歓声が上がっていました。いざゴムボートに乗り込むと、みんな息を合わせてパドルを動かして、時には水を掛け合ったりしながら、高き7メートルほどの途中、高さ7メートルほどの岩場から川に飛び込める場所があり、ボートから下りて両町の児童が一人ずつ順番に勇気を出して飛び込みを楽しみました。「怖かったけど、やってみると楽しかった！」と興奮していました。再びボートをこぎ、無事にゴール地点に到着した後は



「古代の風 黒の蔵」

一勝地温泉かわせみで体を温め、昼食会場である宮ヶ野小学校へ向かいました。ここでは、多良木町役場企画観光課や教育委員会の職員が中心となつて昼食の準備をしていただきました。竹串に刺さったヤマメの塩焼きに口を大きく開けてかぶりついたり、長い竹を使った流しそうめんに夢中になつたり、バーベキューやおにぎりなど、青空のもとでおいしくいただきました。

昼食後、人吉盆地が一望できる妙見野自然の森展望公園へ向かい、高台から山々に囲まれる球磨地区を眺め、多良木町とその周辺の地理的關係などを学びました。その後、国指定重要文化財である江戸時代に建設された太田家住宅を見学し、涼をとるために風通しに配慮した間取りになつていることや、当

多良木町に着いて最初に思った事は「本当にこんなに暑いんだ。」でした。4日間の中では民泊家庭で過ごした事がとても楽しくて印象に残っています。馬刺しやかからしれんこんがとてもおいしかったです。また多良木町に行きたいです。2月には精一杯おもてなしをしたいと思います。寒さを体験してもらったり雪のきれいな景色を見てもらいたいです。



なかむら ののか
中村望々夏さん
(左)と黒肥地小
山口友万さん

時の生活様式などについて話を聞きました。

その後、今年7月にオープンした多良木町埋蔵文化財等センター「古代の風 黒の蔵」へ移動。「歴史とロマンの町」を標榜する多良木町で発掘された数々の文化遺産の展示を見学し、弥生時代と米作りの始まりなどの説明を受けました。

夕方、民泊家庭からのお迎えがあり、2日目の夜は南幌町の児童がペアとなる多良木町の児童の家庭に泊まりました。

ぼくが4日間で一番楽しかったのは、球磨川でのラフティングです。球磨川は流れが速く落ちない様にするのが大変です。高いガケから深い川へダイブしたのが、怖かったし、楽しかったです。民泊家庭では、すぐ友達になれ、とても良くしてもらいました。2月の受け入れの時は、雪中サッカーをしたりして、天能君とより交流を深めたいです。



わたなべ かなた
渡邊寛大君 (左)
と多良木小
石井天能君

この4日間で一番ラフティングが楽しかったです。崖から飛び降りたり波が来た時に、うつ伏せになったりしました。民泊家庭に宿泊させて頂き一番楽しかった事は川遊びです。友達とその姉妹と手をつなぎ流れて遊びました。本当に楽しい事ばかりで訪問させて頂いた事に感謝の気持ちで一杯です。2月の受け入れの時には雪合戦などをして遊びたいです。



おない あいな
尾内愛菜さん
(左)と多良木小
江上凜さん

【3日目】 7月27日

民泊/多良木高校セミナーハウス/ビーチバレー/花火



民泊家庭でたくさんさんの経験をさせていただいた後、17時、多良木高校セミナーハウスに集合しました。多良木町職員と多良木高校野球部マネージャーの方の手作りカレーライスをおたきながら民泊での体験をお互いに報告し合う児童たち。それぞれの家庭では川遊びや魚釣り、球磨村の鍾乳洞に連れて行ってもらうなど、楽しい思い出がたくさんできたようです。セミナーハウスでは、多良木高校野球部のお兄さんたちとの交流も行われ、ビーチバレーやバスケットボール、花火などを楽しみました。

ぼくが4日間で一番楽しかったのは民泊で森安晃大くんの家泊まったことです。いっしょに遊んだり、どうくつに行ったり、虫とりに行ったりして楽しかったです。熊本県は北海道と比べると少し暑かったけど3日、4日目になるとなれて北海道に帰って来た時は、少し寒かったです。今度2月に北海道に来る時は多良木の人と雪遊びをしたいです。



あおやなぎ たけし 青柳 剛君 (右)
と黒肥地小 / もりやす くり 森安晃大君



この時、体育館の近くでゴキブリを見つけた南幌町の児童は大騒ぎ。多良木町の児童は、ゴキブリを初めて見たと言っている南幌町の児童に驚いていたようです。蒸し暑い体育館でたつぷり汗を流し、この日は男女それぞれが1つの大部屋に宿泊し、最後の夜を惜しむように話は尽きなかったようです。

私が、一番楽しかったのは、3日目の夜に12~1時位までみんな起きて話をして盛り上がったのが一番楽しかったです。民泊家庭に泊まって、民泊先の方々が温かいと感じました。民泊先では山に登りました。そして訪問が終わって少し淋しく感じます。2月の受け入れの際には、私と同じく、帰ってから淋しく感じる位、もてなしたいです。



すずき しおり 鈴木紫和理さん (右) と久米小 / いんどう りこ 犬童梨心さん

ぼくは、多良木町に行って一番思い出に残っているのはラフティングでの崖から飛び降りたことです。7m近くの崖だったので下を見た時は、少し怖かったけれど、飛び降りて見れば全然怖くなくなりました。民泊家庭では、野球、サッカーなどをしたり川などに行っですごく楽しかったです。



さとう ましほ 佐藤圭君 (左) と多良木小 / あいこう まいと 愛甲真都君

この4日間で一番楽しかった事は、ラフティングです。かけから飛んだり、強い波がボートをゆらしたり、楽しかったです。多良木町は自然が多かったです。民泊家庭に泊まってみて、北海道ではあまり見ないドグラやナナフシを見れて、楽しそうだなと思いました。訪問が終わって、皆、方言や発音が変わっていて、おもしろかったです。2月は、かまくらで遊びたいです。



ささき やまと 佐々木大和君 (左) と黒肥地小 / くぼた たける 久保田尊君

一番の思い出は、民泊です。野生のイモリを初めて見たり、熊本の「カップ探し」に連れて行っていただいたり、家族の皆さんと一緒にたくさんお話して、いっぱい笑い、とても楽しい時間を過ごしました。熊本名物の馬刺しやパッションフルーツなど美味しいものもたくさんごちそうになりました。最終日にお別れするのが、とてもつらかったです。



のろ なつみ 野呂夏希さん (右) と黒肥地小 / しんぼり 新堀まつりさん



最終日の朝、多良木町役場で別れ会を行いました。多良木町の松本町長のお別れの挨拶の後、南幌小の岡田校長が謝辞を述べ、お別れの言葉を多良木町児童代表の黒肥地小の犬童真衣人君と南幌町児童代表の尾内愛菜さんが発表しました。

記念撮影の後、お世話になったお礼を伝えたり、南幌町での再会を誓ったりしてから、たくさんの方に見送られました。多良木町を出発。バスの中では、多良木町の児童が居なくなり人数が少なくなりました。様子に「さみしいね」と話していました。

熊本市内に入り熊本城を訪れ、石垣や鉄砲などを見

て歴史を学びながら天守閣に登りました。その後、敷地内のレストランで昼食をとり、お土産を購入し熊本空港へ。最後に、終始にわたり私たち訪問団のお世話をしていただいた多良木町教育委員会永井さんと秋山さんにお礼を言い、飛行機に乗り込みました。

羽田空港で乗り継ぎ新千歳空港に到着すると、24度の外気に「寒い、寒い」と連発。南幌へ向かうバスの中では、自然と多良木町の方言で話している児童たち。今回の滞在で多良木町の風土や文化に慣れ親しんだ様子が伝わってきました。役場で温かく出迎えてくれた保護者の方々に児童が一人ずつ感想などを述べてから、帰宅しました。きつとそれぞれの家庭でもお土産話が尽きなかったことでしょう。

今度は、来年2月に今回交流を深めた多良木町の児童10名が南幌町にいらつしやいます。冬の楽しさをたくさん経験してもらえよう、児童をはじめ地域の皆さんと協力して受け入れたいと思いますので、ご協力をお願いします。

はじめて行った熊本県では、楽しいことがたくさんありました。かわらの屋根の家などぼくには初めてでした。真衣人君という民泊家庭の友達とはずっと前から遊んでいたみたい楽しく過ごせて、お父さんたちにも優しくしてもらいました。今度は家族であそびに来たいと思いました。冬に真衣人君が来たときには、はじめて食べるものや雪の楽しい遊びをいっぱい教えてあげたいです。



おのしま かんじ
小野島寛至君
(左)と黒肥地小
(右)と犬童真衣人君

この4日間の交流で一番楽しかったのは、民泊です。民泊では、マスのつかみどりなどの体験をしてとても楽しかったです。民泊家庭の方にも温かく迎えてもらい嬉しかったです。2月には、南幌も負けない位温かく迎えてあげたいと思っています。

訪問が終わった今、少しさびしいです。受け入れの時、皆で雪合戦をしたいです!!



かつやま しおん
嘉津山誌恩さん
(左)と黒肥地小
(右)と那須麗海さん

連日、本当に良いお天気に恵まれた今回の多良木町訪問。出発前に岡田団長（南幌小校長）が「五感を使って違いを見つけてほしい」と児童へ送った言葉どおり、児童たちは全身で多良木町の夏を満喫し、違いを体感していたようです。北海道では感じられない強い日差しと熱気、透き通った川の水、そこへ飛び込む爽快感、話す声も聞こえなくなるほど大きいセミの声、仲良くなった多良木町の友達と一緒に釣って食べたヤマメの味…。日焼けした顔で、まだまだ言い足りないと言わんばかりに思い出を話す児童の笑顔を見ると、この児童交流の充実した時間が伝わってきます。

多良木町の皆様、たくさん体験と心のこもった「おもてなし」を本当にありがとうございました。2月の来町を心よりお待ちしております。

訪問団引率者一同